

## 『細密イラストで見る 京阪電車 車両の100年』 補足資料

2010/06/01更新

\*  …今回の更新箇所

## ①誤植訂正

頁	該当箇所	訂正内容
27	下から1段目の1000形のイラスト右上の解説	1965年には、淀屋橋地下線への乗り入れのため、側面窓の保護棒が復活していた。
32	上から3段目、左から2番目の正面図	1313という番号の車両は存在せず。33ページのイラストから、1311の誤りか？
34	下から2段目の1300形の側面図 (1307)	1307はもともと両運転台車で、運転台撤去側も廃車まで乗務員室扉が残っていた。イラストのような状態になっていたのは、Mcでは1311・1312のみである。
42	2000系の解説文の右段上から1行目	1700型ではなく1800系の誤り。1700型では木目調であった。
46	上から2段目の1900形の側面図 (1915) 下から1段目の1900形の側面図 (1911)	スカートが未設置であることから、昇圧準備工事前の姿であるが、通勤車格下げから昇圧準備工事までの間は、幌吊なし・ステンレス幌枠であった(通勤色・幌吊あり・スカートなしの組合せは実在しなかった)。
47	下から2段目、右から2番目の正面図 (1915) 下から1段目、右から2番目の正面図 (1911)	無線アンテナは、車体中央よりもやや左寄りに設置されていた。
47	下から1段目、右から2番目の正面図 (1911) 下から1段目、右から1番目の正面図 (1911)	
49	下から1段目の側面図	279は3次車で、上の274と同様に、前照灯は1灯で、ウィンドシルが見られた。280は4次車であったが、1次車の267と連結されることが多かった。なお、4次車のパンタグラフは、いずれも連結面側に設置されていた。なお、車体長は、14900mmではなく14200mm。
50	上から2段目の側面図 (279)	
56	2400系の側面図 (すべて)	更新前、2400系の側面方向幕は、シーケンス式(種別・行先一体型)であった。
57	2400系の側面図 (すべて)	
58	下から1段目の5500形の側面図 (5555)	5000系第5～7編成の側面方向幕は、当初からブリッジ式(種別・行先分離型)であった。
59	上から1段目の5100形の側面図 (5107)	
67	下から2段目の2900形の側面図 (2952)	水切りありが正しい。
71	1900系の側面図 (すべて)	1900系の側面方向幕は、シーケンス式であった。
72	1900系の側面図 (すべて)	
73	1900系の側面図 (すべて)	
72	上から1段目の1900形の側面図 (1927)	1927・1929の乗務員専用扉は、上部の角が丸みを帯びており、取っ手は逆L字型であった(イラストの扉は、1917～1920のものに近い)。
73	上から1段目の1900形の側面図 (1929) 下から1段目の側面図 (1929)	
78	下から2段目の正面図 (95) 下から1段目の正面図 (95)	無線アンテナが車体中央に、ヒューズボックス(?)が右寄りに描かれているが、実際には両者とも中心よりも左寄りに設置されていた。
99	下から2段目の10600形の側面図 (10655) 下から1段目の10000形の側面図 (10055)	2次車では、各出入口の向かって左側の扉には、非常用の取っ手がない。
100	上から1段目、左から2番目の妻面図	新塗装に塗り替えられた時点で、貫通扉の取っ手はすでに縦長タイプに交換されていた。
103	上から1段目、左から1番目の正面図 (2209)	パンタありが正しい。
104	上から2段目、左から1番目の正面図 (2604) 上から2段目、左から2番目の正面図 (2625)	パンタあり、貫通扉の鍵穴あり、貫通扉両脇の手すり塗装ありが正しい。
105	上から2段目の2900形の側面図 (2943) 下から1段目の2900形の側面図 (2953)	水切りありが正しい。
106	上から1段目の側面図 (2943)	
106	5000系の側面図 (すべて)	現在は、全編成とも、側面方向幕はブリッジ式となって

107	5000系の側面図（すべて）	いる。
115	上から3段目の8100形の側面図	正しいイラストは、「鉄道ホビダス」ホームページよりダウンロード可能。愛蔵版では修正済。
117	上から2段目、右から2両目の側面図	車両番号は、8508ではなく、8558が正しい。
118	下から2段目の10600形の側面図（10655） 下から1段目の10000形の側面図（10055）	2次車では、各出入口の向かって左側の扉には、非常用の取っ手が無い。
140	「2600」の上から3段目の「自重」欄	正しくは、34.0。
140	「2600」の下から2段目の「集電装置」欄 「主電動機形式」欄	「主電動機形式」欄の「ッ」は不要で、 「集電装置」欄に「ッ」が必要。
140	「2600」の下から1段目の「自重」欄	正しくは、28.0。
141	「2600」の上から1段目の「製造年月」欄	正しくは、1978. 6～1982. 9。
141	「2600」の下から3段目の「製造所」欄	「京阪寝屋川車両工場」のみとなっているが、 「川崎重工」も付け加えるべき。
142	「8両編成×26列車」	正しくは、8両編成×25列車である。
142	「7両編成×47列車」の右段上から2行目	正しくは、図①（別紙）のとおり。 *2625・2825のパンタグラフ
142	「特急×11列車」の右段上から5行目	正しくは、図②（別紙）のとおり。 *8181の車両番号、8181・8081の運転台
143	「2両編成×15列車 石山坂本線」	正しくは、図③（別紙）のとおり。 *連結器はいずれも永久連結器 *601・611・613は、M車・塗油器なし *709・710（左下） → 615・616 *601・602（右下） → 709・710
143	「4両編成×8列車 石山坂本線」の 下から3行目・2行目・1行目	正しくは、図④（別紙）のとおり。 *862・864・866は、M車・塗油器なし
143	大津線在籍車輛数	正しくは、62両である。

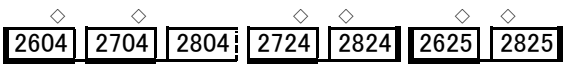
②補足事項（誤りとは言い切れないが、誤解を招くおそれがある箇所など）

頁	該当箇所	補足内容
60	上から1段目のイラスト	左から、5555-5107-5253-5603?となっているが、 第5編成であれば、5555-5155-5255-5855となり、 側面方向幕はブリッジ式が正しい。
62	上から1段目のイラスト	左から、3512-3112-3012となっているが、 第12編成は、3512-3612-3112-3012の4連であった。
69	下から1段目のイラスト	左から、2632-2909-2742となっているが、 第32編成であれば、2632-2942-2742が正しい。

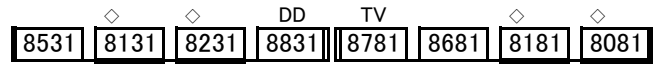
Presented by 倶楽部2600

別紙

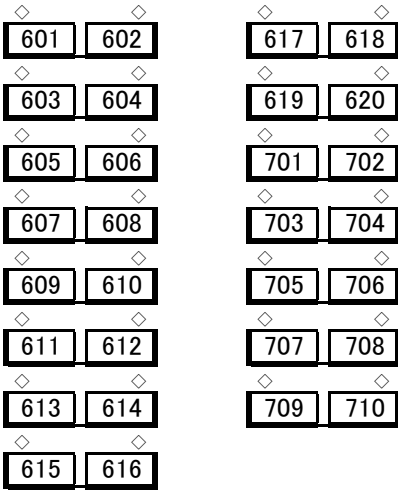
図①



図②



図③



図④

